

安全保障研究部会 第10回 勉強会開催報告

平成28年6月13日

6月11日、市ヶ谷の日本大学会館別館2別館において、当日本国際情報学会の安全保障研究部会の第10回勉強会を開催しました。その概要を報告致します。

日時 平成28年6月11日（土）

場所 市ヶ谷日本大学会館第2別館5階会議室

【研究発表】

（1）星 亮一 「ミッドウェー海戦、山口多聞の死」

『山口多聞 空母「飛竜」に殉じた果断の提督』の著者である星氏より昭和17年6月5日から7日にかけてミッドウェー島をめぐる行われたミッドウェー海戦の戦略的位置づけと、山口多聞少将の行動と人なりについて発表をいただいた。

山口 多聞（やまぐち たもん）

1892年（明治25年）8月17日 - 1942年（昭和17年）6月6日）。海兵40期。最終階級は海軍中将（戦死により海軍中将に特進）。

ミッドウェー海戦

第二次世界大戦中の昭和17年6月5日から7日にかけてミッドウェー島をめぐる行われたミッドウェー海戦。この海戦の結果、日本海軍は機動部隊の航空母艦4隻とその艦載機を一挙に多数喪失するという大損害を被りこの戦争における主導権を失った。

（2）某氏 海外在住 「危機の本質」

中国在住の同氏より、昨今日本のマスコミでは尖閣諸島を巡る日中間の緊張に加え、南シナ海を巡る米中の緊張が盛んに報じられている。これは中国の報道においても同じである。

しかし、中国人は「我々庶民には関係無い」と言い、しかもその場を取り繕うためではなく、本心から言っている。なぜ、中国における報道と庶民との間にこのような「温度差」があるかについて発表があった。

1つ目の視点は、中国は前近代国家と近代国家のどこに位置するか、次の視点は、「易姓革命」という伝統があるということである。易姓革命とは、中国古代の政治思想であり。天子は天命を受けて国家を統治しているから、天子の徳が衰えれば天命も革(あらた)まり、有徳者（他姓の人）が新たに王朝を創始するという思想である。

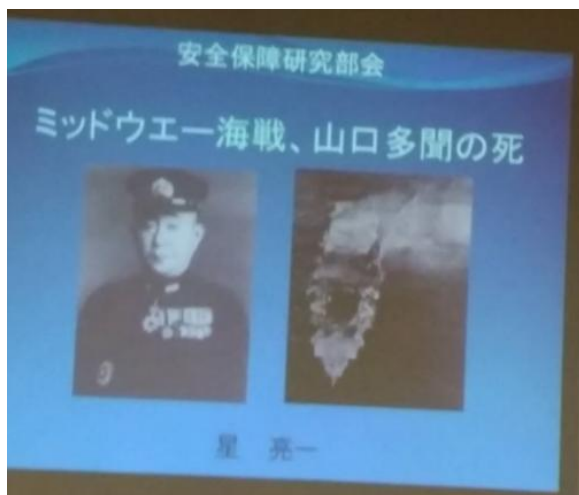
これら2つの視点と中国在住で見聞きした内容を分析し、日中間、米中間における危機の本質について発表いただいた。

(3) 共通テーマ： 平和安全法制の施行から2カ月

昨年9月19日、平和安全法制関連2法が成立し、同30日に公布され、今年3月28日同法が施行された。今回、前半で自衛隊法の前史から成り立ちと有事立法・有事法制の研究の経緯を俯瞰した。後半では、自衛隊法の改正の前後の比較を第3条にはじまり、新設を中心に比較し議論した。

【総評】

研究部会員から幅広い分野における研究結果の発表を得て、部会員の安全保障に関する情勢認識がより高まった。



星亮一氏